

マンダレー管区首相ら来延

ミャンマー 3/7モノづくり技術に関心 交流進む 延岡市との

国際協力機構（JICA）の招きで来日したミャンマー第二の都市マンダレーのゾウミンマウン行政管区首相ら政府関係者が6日、同国と交流が進む延岡市の企業を視察した。

来延したのは、同首相、務大臣ら6人とJICAやミヤットテュ計画・財関係者など4人。



旭化成の製品を興味深く見学するゾウミンマウン行政管区首相（旭化成展示センター）



市役所で開かれている友好会主催のパネル展

旭化成延岡展示センターの歓迎を受けた一行は、1で竹本常天延岡支社長グループの製品を通して

延岡市との交流進む

世界最先端の工業技術に触れた後、ベンベルグ工場内を見学。清本鉄工や延岡鉄工団地の修電舎も訪問し、高度なモノづくり技術に高い関心を示した。

LD)で副党首の要職にあるゾウミンマウン行政管区首相は、「訪問は有意義で日本人の勤勉な姿勢を目の当たりにした」と述べ、延岡市とマンダレーとの関係について「どのような分野で交流、協力していくかお互いに検討する必要がある」と今後の展開に意欲を見せた。

また、民政移管後、アジア最後のフロンティア」として注目を集める自国について「発展の可能性がある。日本の経済界の投資を待っている」とアピールした。

延岡市とミャンマーは、平成26年1月に同市の企業経営者が同国を訪ねたのを機に交流が始まった。民間の延岡・ミャンマー友好会（清本英男会長）も発足し、日本人材開発センター（MJIC）の研修生が同市でホームステイしたり、マンダレーに交流拠点「フベオカフェ」がオープンするなど関係を深めている。

同市役所1階の市民スペースでは、これまでの交流の経緯を紹介する写真パネルやミャンマーの民芸品などが11日まで展示されている。

建設館
に建館
市育
延岡
県体

武道館機能備えた施設に

大型スクリーン設置も 県民意見を公表

県は6日、2026年の2巡目国体に向けて延岡市民体育館敷地に建設する体育館の整備基本計画(素案)に対し、県民から寄せられた意見を公表した。8個人・団体から「武道館の機能も備えた施設に」などの要望があった。諸室などについては幅広い方が安心して安全に利用できるよう、共同整備する延岡市などと協議・検討する。県議会総務政策常任委員会(松村悟郎委員長、8人)に報告した。

国体準備課によると、意見はほかに、「大型スクリーン設置を」「メイン・サブの両アリーナに体操競技の器具を設置してほしい」など。体育館建設に併せて弓道場の新設を「の声もあった。

アリーナはバスケットボールコートなら3面を確保。パラスポーツに配慮し、コート間とコートサイドは十分に広くなる。天井高は12メートルとし、観客席は可動を含め3000〜5000席。サブアリーナはバスケットボールコート2面の広さ。観客席数は最大800席程度を検討する。多様な使い方ができる多目的室、大規模災害時対応の備蓄倉庫も整備。駐車場は2000人対応の800台程度とし、必要なら周辺の既存駐車場利用などを検討する。整備は市民の利用が制限されないよう先にサブアリーナを造り、使用開始後に市民体育館を取り壊し、その跡地にメインアリーナを建設する。24年度までに完成させる。概算事業費は約85億円

(本体整備70億円、市民体育館解体、用地造成、外構など15億円)と試算。財源は県と延岡市が負担し、ほかに国の補助制度なども活用する。

近く計画決定し、19、20年度と基本・実施設計に入る。同課は「諸室・設備については競技団体の意見を伺いながら、また、延岡市などと協議した上で基本設計などで検討したい」としている。